

## 丹波縄文の森塾 第1日目活動報告（令和4年5月21日）



天気は曇り。待ちに待った、令和4年度の丹波縄文の森塾が開講。2倍近い応募者の中から、丹波市と丹波篠山市内の小学3年～6年の30人が期待と少しばかりの不安の中参加しました。



開塾式では、芦田副塾長から①里山の自然を観察し、身体じゅうで感じてほしい②いろんなことにチャレンジ、挑戦してほしい③縄文時代の人たちように、いろんな工夫をする力、「知恵」を付けてほしい④家族の人にお話をしてほしいとお話がありました。



まず、樫の木の木片を使って、名札づくりにチャレンジ。自分の名前だけでなく、好きな動物の絵をかいて、世界にひとつしかない胸名札をつくりました。



10年前に丹波の森公苑の中に田んぼをつくられた杉本義治サポーターの指導のもと、長靴で田んぼに入り、親指と人差し指で2本の苗を丁寧に植えました。泥で足が抜けなくなったり、こけそうになったりすると悲鳴をあげていました。慣れてくると「コロコロ」と呼ばれる回転式三角田植え枠を上手にを使って、きれいに苗を植えることが出来ました。



調理サポーターが、里山で掘ったたけのこを使ったたけのこご飯や、ワラビ、ゼンマイの入った山菜のみそ汁をお腹いっぱいいただきました。



「まなあそ」代表の濱畑直也さんの指導で仲間づくり。「じゃんけんあそび」では、芝生の上を息を切らしながら、元気一杯走り回っていました。お互いを知り合うためのゲーム「HAVE YOU EVER」では、濱畑さんが次のゲームをしようかみんなに言うと、「もっと、みんなといろいろな話をしたい」と大盛り上がりでした。